

# 令和元(2019)年上半期 火災・救急・救助統計 (7月5日時点速報値)



問い合わせ **火災** 予防課 ☎254-0356 FAX256-7755  
**救急** 消防救急課 ☎254-1600 **救助** 消防救急課 ☎254-1601 いずれも FAX254-1607

## 火災 出火原因 1位は「たき火」

上半期に発生した火災は79件で、昨年同時期と比較すると6件増加し、うち住宅火災は7件増加しました。出火原因の1位は「たき火(約20%)」でした。たき火を行った際は後始末をきちんと行い、風の強いときには自粛しましょう。

また「こんろ」が原因の住宅火災が4件(住宅火災の約18%)ありました。火の取り扱いに注意し、住宅用火災警報器を必ず設置しましょう。

### 火災概況

▲は減を示す

区分	令和元(2019)年 上半期	平成30(2018)年 上半期	比較	
火災件数合計(件)	79	73	6	
火災種別(件)	建物火災	37	31	6
	うち住宅火災	22	15	7
	林野火災	4	3	1
	車両火災	6	3	3
	その他の火災	32	36	▲4
死者(人)	2	1	1	
負傷者(人)	8	5	3	

### 出火原因

単位は件、▲は減を示す

出火原因	令和元年上半期		平成30年上半期		比較	
	全体	住宅	全体	住宅	全体	住宅
たばこ	4	3	7	5	▲3	▲2
こんろ	5	4	4	4	1	0
炉	1	0	0	0	1	0
焼却炉	1	0	0	0	1	0
ストーブ	3	3	1	1	2	2
ボイラー	0	0	1	1	▲1	▲1
排気管	0	0	1	0	▲1	0
電気装置	3	0	2	0	1	0
電気機器	0	0	1	0	▲1	0
電灯・電話等の配線	2	0	4	0	▲2	0
配線器具	6	4	2	0	4	4
火あそび	0	0	2	0	▲2	0
マッチ・ライター	0	0	1	0	▲1	0
たき火	16	0	20	1	▲4	▲1
溶接機・切断機	1	0	2	0	▲1	0
灯火	2	2	0	0	2	2
火入れ	3	0	2	1	1	▲1
放火	3	1	1	0	2	1
放火の疑い	12	3	7	0	5	3
取灰	0	0	0	0	0	0
その他	4	1	5	0	▲1	1
不明・調査中	13	1	10	2	3	▲1
合計	79	22	73	15	6	7

## 救急 軽症患者が全体の約半数

上半期に発生した救急出動件数は7,931件でした。事故種別では急病が5,008件と最も多く、全体の約63%を占め、次いで一般負傷が1,253件(約16%)、交通事故が616件(約8%)でした。昨年同時期と比較すると、出動件数は13件増加し、搬送人員は20人増加しました。

また、搬送人員全体の約49%(3,563人)が軽症患者でした。軽いけがや病気(擦り傷、歯痛、風邪など)の場合は、自家用車やタクシーなどでかかりつけの病院へ行きましょう。本当に救急車を

必要としている貴い命を救うため、救急車の適正利用にご協力をお願いします。

### 救急概況

▲は減を示す

区分	令和元年上半期	平成30年上半期	比較	
出動件数(件)	7,931	7,918	13	
事故種別(件)	急病	5,008	5,087	▲79
	一般	1,253	1,157	96
	交通事故	616	620	▲4
	その他	1,054	1,054	0
搬送人員(人)	7,242	7,222	20	

## 救助 建物等による事故が増加

上半期の救助件数は77件でした。そのうち、交通事故が39件で全体の約51%を占め、次いで建物等による事故が17件、それら以外が21件でした。建物等による事故は近年増加傾向にあります。その多くは、建物内に居る高齢者に外から呼び掛けても応答がない、といった内容です。

気温が上昇する季節です。建物内でも熱中症などに気を付けてください。行楽シーズンの長距離運転や海、川でのレジャーの際は、交通事故や水

の事故に注意しましょう。

### 救助概況

▲は減を示す

区分	令和元年 上半期	平成30年 上半期	比較	
救助件数合計(件)	77	67	10	
救助種別(件)	交通事故	39	34	5
	水難事故	7	1	6
	機械による事故	2	2	0
	建物等による事故	17	15	2
	上記以外の事故	12	15	▲3